



2025 年度 福知山線 安全研修を開催！

■研修の目的

1. 西労、東労組のこの間のたたかいを学び、自分のものとする。
1. 今回学んだことを今後、自分の言葉で語り、広められるようにすること。
1. 今回学んだことを踏まえ、原因究明出来る職場風土に向けて実践すること。

JR 西日本福知山線脱線事故は、今年で 20 年を迎えました。東京地本は、2025 年 10 月 21 日（火）～22 日（水）に福知山線安全研修を開催し、総勢 16 名で福知山線脱線事故現場を訪れました。脱線事故現場に設立された『祈りの杜』で、この事故で亡くなられた 107 名への献花、黙とうを捧げ、同施設内にある展示室を見学しました。その後、尼崎小田北生涯学習プラザにて西労組合員と意見交換会を行いました。

JR 東日本においても 2022 年 11 月に宇都宮運輸区、2022 年 12 月に国府津運輸区（旧職場名で記載）にて懲罰的な日勤教育が行われました。人間はミスをする生き物であり、『責任追及から原因究明』の視点に立った再発防止の教育を行うべきであり、懲罰的な日勤教育は許されるものではありません。

参加組合員からは「福知山線脱線事故の原因を運転士 1 人に押し付けた会社は許せない。」「今回の研修で安全に対する意識が強くなった。」「事故の原因は JR 西日本の企業体質であると感じた。」「西も東も営利優先体質は変わらない。」「職場で仲間に語っていく。」など感想が述べられました。今後、東京地本は組合員と共に『安全再確立に向けて』議論を進めていきますので、ご協力の程よろしくをお願いします。



西労前川執行委員長から挨拶、清水教宣部長、幸書記長より講演、小川執行副委員長から締めの言葉を頂きました（一部抜粋）

- ・ JR 西日本の「営利優先・運行第一・社員への責任転嫁・労使癒着」の企業体質とたたかってきた。会社の営利追及には終わりはない。
- ・ 今年の 4 月 25 日、脱線事故発生当日も関西万博ワッパンを着用し続けた。管理者にワッパンを取るべきだと抗議したが、管理者が判断出来ない。
- ・ 福知山線脱線事故の原因は間違いなく日勤教育である。
- ・ 1997 年の三大プロジェクトとして『JR 東西線開業』『500 系新幹線デビュー』『京都駅ビル開業』があり JR 東西線開業に合わせて尼崎電車区が新設された。尼崎電車区初代区長が日勤教育を強力推進し、全支社に展開された。特に西労組合員に対して西労破壊として日勤教育が利用された。
- ・ 事故から 20 年経過した現在、日勤教育には変化が見られるが、会社の経営体質そのものは変わっていない。
- ・ これからも JR 西日本会社を社会全体で監視し、今後も安全闘争を続けていく。
- ・ 1990 年に JR 総連が主催した国際鉄道安全会議に JR 西日本労使は出席を拒否した。翌年に信楽高原鉄道事故、その後、塚本駅救急隊死亡事故と繋がり福知山線脱線事故が発生した。
- ・ 運動に正解、不正解はない。組織創りをするのが大切である。

2026 年 1 月 14 日（水）東京地本 新春の集いにて研修報告会を開催します。皆さんの参加をお待ちしています。我々から JR 東日本の安全風土を創り出そう！